

補習校教育支援事業の 10 年を振り返って

葭 和宣 (公益財団法人海外子女教育振興財団)

本年度をもって、国の支援のもと実施されてきた補習校教育支援事業（AG5、AG+）が 10 年間の活動に一区切りを迎えることとなった。事業開始から 10 年という節目を迎えるにあたり、私は事業 3 年目から事務担当として携わり、以来 8 年間にわたってその運営に関わってきた。本稿では、事務担当の立場から本事業を振り返り、その意義と学びについて述べたい。

本事業は、海外において日本語や日本文化を学ぶ子どもたちを支える補習授業校の教育環境の充実を目的として始まった。その中心的な活動は、補習校で指導にあたる先生方への研修や情報提供・共有の支援などであり、多くの教育関係者の協力によって推進されてきた。

私が事務担当として関わり始めた頃には、事業の基盤はすでに整いつつあったが、活動の広がりとともに運営面での調整や支援体制の充実が求められる時期でもあった。

特に印象に残っているのは、補習校の先生方が日々抱える課題や悩みに寄り添いながら、研修や情報交換の機会を通じて支援を行ってきたことである。海外という限られた環境の中で、教育への情熱を持って子どもたちに向き合う先生方の姿勢から、多くのことを学ばせていただいた。

本事業の特筆すべき点の一つは、オンライン技術を活用したネットワーク形成に早くから取り組んできたことである。コロナ禍以前から遠隔会議システムやオンライン研修を活用し、地域や国を越えて先生方が学び合える環境づくりを進めてきた。その結果、補習校間の交流が活発化し、教育実践や教材に関する知見の共有

が促進されるなど、補習校教育全体の質の向上に寄与したと考えている。

振り返れば、事業の成果は単に研修の実施回数や参加人数だけでは測ることができない。補習校に関わる先生方のネットワークが広がり、教育実践や経験が共有され、それが子どもたちの学びへとつながっていったことこそが、本事業最大の成果ではないだろうか。事務担当としてその一端を支えることができたことを大変光栄に感じている。

事業は今年度で終了するが、この 10 年間で築かれた知見や人的ネットワーク、そして先生方の熱意は今後も受け継がれていくことと思う。私自身も、本事業を通じて多くの方々と出会い、学び、成長する機会をいただいたことに深く感謝している。

最後に、本事業の立ち上げ以来、多大なるご指導とご助言を賜った佐藤郡衛先生、そして事業推進の中心的な役割を担い、常に現場の声に寄り添いながら本事業を牽引してこられた佐々信行先生、三井知之先生に心より感謝申し上げたい。また、本事業に関わられたすべての先生方、関係機関の皆様、そして支えてくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。本事業が 10 年間で築き上

げた成果とネットワークが、今後も補習校教育の発展に生かされていくことを願ってやまない。